



南翔

秋田県立秋田南高等学校
同窓会会報

「南翔」第四十二号

題字揮毫

第十一代校長

松本 健 先生

南高校が目指すもの

秋田南高等学校 校長 誉田 憲彦



同窓会の皆様におかれましては、常日頃より母校の教育活動に多大なご支援ご協力を賜り衷心より感謝申し上げます。

上げます。

平成十七年を迎え、いよいよ本校同窓会は四十周年を迎えることとなりました。昭和四十年（一九六五年）に一期生を世に送りだしてから、四十年を経たこととなります。その一期生の皆様は現在様々な分野でリーダーとして活躍ですが、職業人としてゴールを目前にされている方々も多いことと思います。母校の現在の状況をどのような想いで見守っておられるでしょうか。物足りなさにはがゆい思いをされていることと思います。

平成十四年に本校は四十周年記念事業を行いました。次の五十周年は南高校にとって半世紀の区切りとなる訳で、これまでの教育活動の総決算を世に問うものと思っております。現在、本校は進学校として各方面から多くの期待を集めておりますが、目指している目標を考えま

すとまだまだ途上にあり、今後多くの課題を克服していかなければなりません。本校創立時の目標を達成することこそ、南高校のめざすべきものであると思っております。創立五十周年に向けての本校の目標を同窓会の皆様にお知らせし、今後、ご協力をいただきながらその実現に努力していきたい思います。

秋田南高等学校の目指す教育理念

本校創立五十周年までに創立の目標を達成する。

- ① 地域社会の期待に応え、郷土の発展に貢献できる人材を育成する。
- ② 社会性と国際性を体得させ、国内外を舞台に活躍するスケールの大きな人材を育成する。
- ③ 生徒の入学時の進路志望を達成させることのできる学校を目指す。
- ④ 部活動の振興を図ると共に学業との両立を目指す。

※野球部の甲子園出場、吹奏楽部の全国大会金賞はもちろんのことであります。



『SELHi研究1年目を終えて』

担当教諭 森 合 秀 夫

SELHi(スーパード・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール)は、文部科学省が「英語が使える日本人」の育成のための戦略構想」の施策の一つとして、「英語教育を重点的に行う学校を指定し、英語教育を重視したカリキュラムの開発、大学や海外姉妹校との効果的な連携方策等について実践的研究を行う」事を旨とし、平成十四年度に

開始されました。本校は県内で唯一、その指定を受けて、十六年度入学の英語科の生徒を対象に、三年間研究を進めていきます。今までも英語学科の授業ではコミュニケーション能力の育成を重視しておりましたが、さらに、「国際社会で活躍できる人材の育成」を目標としました。そのような人材の資質を、ただ単に「英語を理解し、話せる」だけでなく「どの国の人々とも英語を通して、お互いの考え方や文化を理解しあおうとする態度・能力」であると考えると、次のように研究課題を決定しました。

◇研究課題

相手の考え方や意見を共感的に理解して、英語で自分の意見をわかりやすく述べるコミュニケーション能力育成のための指導方法と評価方法。

今年度は実践的コミュニケーション能力の向上を主眼におき、外国人教員と共に英語で行う授業や英語研修合宿、国際教養大学との交流事業などを行ってきました。さらに、韓国の群山女子高等学校と英語教育の推進を目的とした姉妹校提携を結び、七月には韓国から四十一名の生徒・教員団が来訪し、本校からは十月に三十三名の訪問団が群山女子高校を訪問しました。生徒は相互に相手の生徒の自宅にホームステイをし、海を越えた友情を深めました。この姉妹校交流は英語学習の範囲を超えて秋田南高校に新しい歴史を刻みました。

県内唯一ということ、韓国の高校と英語教育研究を行う珍しさもあって、4月から何回か新聞やテレビでも紹介されました。授業でも課外活動でも様々な国の人々と交流し、その多様な英語に触れた結果、ほとんどの生徒が外国人を特殊な目で見ることもなく、自信を持って会話ができ、研究の成果が目に見えてきているようです。

楽しみで仕方ないこと

H組 藤原 直哉

SELHi指定校となった南高校に入ったからなのではうか。自分は外国の人に文法も発音も不確かな「英語」を面と向かって口にできるようにしました。

今年の二月までラグビー部の一員だった留学生のボール君と出た練習試合のことです。いつまでもボールを離そうとしない彼の姿が僕の目に触れました。僕の口はとっさに「Release!」という言葉を出してボールを彼の手から離しました。今思うと、あの時とっさに英語を使えた自分に感謝し、これまで学んできた「英語」がようやく「言語」として生きてきたことを実感できます。

一年前、教科書の中が全てだった僕の英語の世界はこの一年でどれだけ広がったのでしょうか。そして三年後外国人の目に映る僕の姿はどうなっているのでしょうか。僕は楽しみで仕方ありません。

いけばな教室

(財)小原流

一級家元教授

速水 松 整
(整 子)

2期C組卒

秋田市手形からみでん3-67

☎018-832-1531



慶弔スタンド花・花環・ブーケ・アレンジメント

土崎佐藤生花店

佐藤 恒雄 3期C組卒

秋田市土崎港中央7-2-14
(旧相染町) バス停市営ガス前

☎ 0120-45-0916(代)
FAX 846-9699

永遠のきらめきを貴方に

■デザイン・リフォームのことならおまかせ下さい

篠田宝飾

<こしやる店> 篠田 照子(2・I)

この道四十余年 篠田 大祐(26・A)

営業:AM9:00~PM6:30 秋田市保戸野すわ町8-12

休日:日曜日 JJA-JA3級 ☎(018) 823-8081

磨かれたセンスと技術でお応えします
・結婚リング・お好みのデザインでご予算に合わせます
・宝石をオリジナルデザインにリファインしたいーそんな時
・こわれたり、サイズに合わないもののリフォームetc



8位入賞など創部間もない部とは思えないような活躍をしていました。

アーチェリーはアテネオリンピックでの山本博選手の活躍で皆さんも存知と思いますが、個人戦と団体戦があります。団体戦といっても1チーム4人と他の種目に比べて少

目標を伝統に

アーチェリー部顧問
藤原 真也

私が、本校アーチェリー部の顧問になったのは今年度からです。それまでのアーチェリー部はインターハイで男女

ないといえます。その中で、本校の29人の部員をどのようの一つのチームにしていけばよいか部員と私の課題でした。

アーチェリー部では、大会や、シーズンインのときなどにミーティングを行います。ミーティングは私が入るときもあれば部員だけのときもあります。部員だけのときにもどんなことを話し合っているかは知りませんが、行動や練習場の掲示物などからなんとなく想像がつかます。

今年度は、部員の頑張りにより男子がインターハイ8位入賞、女子春秋東北大会団体優勝などの結果を残しました。また国民体育大会には秋田県代表として4名中2名の選手を出すことができました。年度末には全国選抜に女子2名男子1名が参加します。アーチェリー部の目標は『インターハイ男女アベック優勝』と大きく簡単には達成できません。これから十年かかるか二十年かかるかわかりませんが卒業生と現役の生徒がいつまでも目標を共有できる部になればと思います。

1ミリの勝負

女子キャプテン
北林 宏子

私たちの練習は雪から始まる。70メートル先のターゲットの真ん中を狙う精密な競技。体の微妙なズレも勝負を左右するのに凍って安定しない足場では困る。夜のうちに積もった雪と氷を割り、ようやくスタート。雪国ならではの準備体操兼筋トレである。

アーチェリーはきつと、最も細かいスポーツだと思う。細かく決まった体の一挙一動から、的に当たるまですべてがミリ単位だ。たった1ミリの差で勝負が決まってしまう。また、精神面も勝敗に大きくかわかる。迷った矢は中心に近づくもしい。逆に、逆



活躍するアーチェリー部員

おびえていても勇気を持って射てば、中心に当たることもある。アーチェリーは少しでも中心に近づけようとする己への挑戦でありながら、射つてしまえば後は運任せのギャングブルのようでもある。とても怖い競技ではあるが、私はアーチェリーのそんなところに夢中なのだろう。

秋田は雪国の田舎町。冬でも快適に練習できる南の方の人たちとは違う。だが、それでも私たちは『日本一』になりたい。いつかは東北の無名の高校が、あらゆる強豪校をなぎ倒し、インターハイの表彰台のてっぺんに登る。その日を夢見ながら今日も私たちは雪をかく。

土木資材・肥料・農薬・灯油販売

青葉産業 株式会社

取締役部長 村 尾 博
6期E組卒

秋田市仁井田目長田3-4-45
☎ 018-839-5410
FAX 018-839-6477

人事・賃金・社内諸規程
労働・社会保険等の労務全般

渡辺博人 社会保険 労務士事務所

社会保険労務士 渡辺博人(12・F)

秋田市桜ガ丘二丁目4-9
TEL 018-831-5280
FAX 018-831-5287

KICCHO HOME
吉兆ホーム

ふれあう心で家づくり

株式会社 吉兆ホーム

代表取締役 吉田一生(13・F)

秋田市泉北3丁目4-5
TEL (018) 866-9280
FAX (018) 866-9316

社会人教養実践講座

川合俊昭氏(第五期)・堀井留美氏(第十五期)・工藤純二氏(第十期)

去る二月九日(水)と十六日(水)の二回にわたり、本校一年生の「総合的な学習」の一環として、社会人教養実践講座が開催された。講師は、本校同窓生の川合俊昭氏(第五期)、堀井留美氏(第十五期)、工藤純二氏(第十期)の三名にお願いした。講演の内容は以下の通りである。

㈱エイチ・アイ・ティ

代表取締役

川合 俊昭氏(第五期)

ソフトウェアを製作する際に、次のような行程を踏みます。①要件定義、②概要設計、③基本設計、④プログラム製造、⑤テスト(単体テスト、総合テスト)という5つの行程です。

諸君の素養、特技はある程



川合 俊昭氏

度決まりつつありますが、それが①に該当すると考えられます。人生に例えると、高校時代は②、③に当たり、人生の概要を考えなくてはならない時期です。言い換えれば、まだいくらでもやり直しのきく時期です。概要設計とは、「私はこうなりたい」とか、「この大学にも行ってみたい」、「この仕事にも就いてみたい」という段階です。基本設計とは、具体的なプログラムがある訳なので、「私はあの大学に行って、こういう道に進みたい」という段階です。ここで一番大切なのは、『人』です。会社が欲しい人材は、『人と話ができる人』です。あまりにも当たり前の事です。が、大切な事なのです。人の悩みを自分の悩みのように受け止められる人でなくては仕事はできないのです。コンピュー

ターの世界に限らず、知識、知恵、技術はいくらでも後からついてきます。後からついてこないのは、『人柄』です。では、どうやってたら人を磨けるのか。「人を知る」、「社会を知る」の二つを磨けばいいのです。この二つを磨くのに大切なのは『本』だと思っています。今、みなさんはビジュアルの世界に生きています。活字というのは想像力を高めま

す。活字は、自分の可能性を中から大きく膨らませてくれます。もう一つ大事なことは、『人と接すること』です。できるだけ人と会って話をする事です。「電話は最大の武器にもなるけれど、最大の脅威にもなる」と言われます。実際に会って話すことで相手がどれだけ困っているのか、どれ位嬉しいのかも手に取るように分かります。特に大人と話をするという事を心がけて下さい。

私はどこにいても手を挙げて、胸を張って、「南高校の卒業生です。」と言います。皆さんも、勉学、部活動に励んで、「私は南高校の卒業生です。」と声を高らかに宣言できるようにこれからの高校生生活を頑張ってください。



堀井 留美氏

㈱プレステージ・

インターナショナル

堀井 留美氏(第十五期)

㈱プレステージ・インター

ナショナルは、本社が東京にあり、従業員数は約八〇〇名、このうち約四〇〇名が秋田に勤務しています。海外十三カ国、十六拠点あり、秋田市の誘致企業として新屋の西部工業団地に平成十五年十月に開設されました。一言で言うところ『コールセンター』です。交通事故を起こした、コンピューターの使い方が分からない、クレジットカードを落とした、盗まれた、国内外の通信販売の問い合わせ等というようなヘルプデスクというところの『0120』がうちの会社に入ります。各企業で『コールセンター』を持つと、人員確保が困難であり、覚える事も専門的なので委託したほうが助かるというのが実情です。

うちの会社は、学歴、性別、年齢はぜんぜん関係ありません。自己申告で自分の目標を設定して、スキルアップを図っていきます。うちのような企業で今どんな人が欲しいかというところ、『ヒューマンスキル』の高い人です。人間的な人格が備わっている人です。『テ

クニカススキル』という、業務的な内容は入社してから研修でいくらでも伸びてきます。『ヒューマンスキル』は、研修をしたから伸びるというものではありません。今から、『ヒューマンスキル』を伸ばして欲しいと思います。そのためにも、自分の『棚卸し』をしてもらいたいと思います。

自分は何が好きか、何ができるか、何に興味があるのか、小さい頃、何になりたかったのか等を紙に書いてみて下さい。『自分は何か』という事に向き合った時に、何も書けない人がいます。普段から自分について考えておいて、それを表現できるように練習してもらいたいと思います。

ラグビーの十五人というのは、それぞれ役割があります。自分のやるべき事が分かって



工藤 純一氏

いないとボールは回って行きません。広いフィールドに立った時に必要のない人間は、向かっていく事も、怖くて逃げる事もできない、何をしたいのか分からない人間だという話を聞いた事があります。仕事も同じです。自分が何でそこにいるのか、何をしたいのか全然分からないでそこにいる人は必要ないんです。高校生にとって今できる事は、勉強でも、部活動でも、趣味でもない、二十歳になったらできない事、今しかできない事をとりあえず一生懸命やって欲しいと思います。

の色々な会に参加して下さい。皆さんとまた会えるのを楽しみにしています。これからの、『自分探し』頑張ってください。私もまだまだ負けないように頑張ります。

東北大学

東北アジア研究センター

北アジア社会研究分野

教授 工藤 純一氏(第十期)

私は現在、東北大学で教授という職に就いています。

この4月から国立大学というのは無くなりました。みんな国立大学法人になりました、東北大学でも教員が約二五〇〇人います。

大学は大別すると、①教養大学、②研究大学、③高度職業人育成大学の三つに分かれます。東北大学は、研究センター、開かれた大学、機動的な人材の育成、最高水準の研究を創造する事を理念に掲げています。かといって、東北大学が教養大学ではないという事ではないのです。どちらかというと、研究を中心しているのです。その研究というのは、人のできない事を学ぶ、答えのない問題を解くようなものです。楽しくなければ研究でない。ただ知識を蓄える

のは研究ではないのです。

私自身は、衛生画像を処理して、地球規模で広がっている、『森林火災の被害状況を把握する事ができるシステム』の開発に携わってきました。

「情報」というのは、自分の意志を相手に伝える、そういう人間の根幹をコンピュータを使って行うという事だと考えています。コンピュータがなくても自分の意思は伝わりますが、コンピュータがあるとたくさんの方を多くの人に伝える事ができるので

す。高校時代の私は、決して褒められた生徒ではありませんでしたが、今になっていえることは、効率的なデータベースをつくれれば、十分満足できる点数を取れるという事です。高校時代にテストで赤点を取った時に、その当時校長だった石川哲三先生が『一心不乱』と書いた葉書を家に送ってくれたことは今でも鮮明に覚えています。皆さんには、持っているポテンシャル(潜在能力)をどう生かすかという事を考え、悩んで欲しいと思います。そして、大きな目標を設定して頑張ってください。います。

南 高 生 へ

秋田県立西目高等学校野球部監督

石川 聡 (二十七期)



多くの活躍される諸先輩方、前

に大変恐縮ですが、一人の同窓生として後輩へのメッセージも込め、書かせて頂きたいと思っています。

高校時代の私は成績も悪く、これといって目立つ点もない生徒でした。ただ、甲子園を夢見て人一倍熱心だったと思います。平成二年夏、私は水林球場で最後の高校野球生活を終え、悔しくて仕方がなかったはずが、涙の一つも流さず帰宅したことを今でも鮮明に覚えていました。その私が西目高校に赴任し、同時に野球部監督に就任しました。今思え

ば、終わったはずの夢を終わりにせず、恩師でもある熊谷監督(現秋田南高等学校教頭先生)の背中を追いかけていたのかもしれない。

四月に西目高校で教員として、監督としてのスタートを切り、講師・コーチ経験の長かった私は意気揚々と学校に足を運びました。少しの自信と希望を胸にスタートしたはずが現実とは正反対。待っていたのは不安と孤独の毎日でした。部員五十七人を抱えた瞬間、私の自信と希望は一気に「重圧」へと変わったのです。新参者に対する冷たい視線、お前で大丈夫なのかという周囲の不安な表情、そして何より生徒の夢を察した時に、この子たちに笑顔を作ってやるだろうかという不安でいっぱいでした。新しいユニフォームに袖を通してグラウンドに立ち、私が一番最初にやるべき事はミーティングを行うことでした。私と選手は目標を確かめたのです。

シーズンがスタートし、一ヶ月にも満たないある日、私は練習に大きな不満を感じました。声は出さず、ダラダラ走る選手を目の当たりにし、チームの最大の弱点を発見したの

です。勝利への執着心の無さです。話す事は一人前、やる事は半人前以下。最悪のパターンです。そこで私は、西目高校で最初の賭けに出ました。「練習をやめて、帰れ」と怒鳴り、選手を突き放したのです。選手は、度肝を抜かれたような表情になり、私は強気を振る舞う反面、不安でした。主将を中心にミーティングを始め、何かを話し合っているようでしたが埒があかず、選手達は走り始めました。その姿を黙って見つめ、二時間以上。おとなしかった選手に次第に声が出始め、足がガクガクになっている隣の選手を励ますようになっていました。その時、「甲子園に行くぞ」と声を張り上げた選手がいたのです。私はその瞬間にダッシュを終了させました。選手はすでに限界を超え、立っているのもやっとの状態でした。練習終了後のミーティングで、「自らの気持ちをグラウンドにぶつけるまで何本かかったんだ」と言った瞬間、三年生達は皆号泣したのです。いろいろな思いがあったのでしょう。その時、確かな手応えを感じ、「この子たちだったらやれるかもしれない」と思ったのです。



春季中央地区大会で初戦敗退。私はショックでしたが、選手の目は死んでいませんでした。自分たちは「やれる」という確かな感触を掴み、夏には虎視眈々と狙いを定めるチームに成長していったのです。「闘う集団」として顔つきが春先とは全く別人の選手達がそこにいました。夏、西目が十五年ぶりにベスト四にコマを進め、選手は試合を重ねる度に力をつけていきました。準決勝の相手は第一シードの秋田商業。先制点を奪い、逆転につぐ逆転の大接戦。一点リードで迎えた九回裏に悪夢の逆転サヨナラ負け。春先の西目を考えると選手は立派に戦い、試合に負けはしたものの、成長した姿

を球場で表現できた大会だった気がします。そんな選手たちに私は誇りさえ感じます。試合後、選手に「監督には野球の楽しさを教わった」と言われた時に、涙が出るほど嬉しかったものです。人間が確かな目標を持ち、達成するために何をすべきか理解した時に、大きな力を発揮できるのではないのでしょうか。三年生と私は、数ヶ月間の野球でしたが、夏を終えて、お互いに春先の自分を思いだした時、一回り成長した自分になっている事に気付いたのです。私は高校時代に教員を目指し、高校野球の指導者になる目標を達成し、今新たな目標に向かって頑張っているところです。南高と多くの先生方に育てられ、今の自分がいる事に感謝の気持ちでいっぱいです。県内随一の環境と指導者陣に恵まれた学校で、在校生の皆さんには、夢を是非実現してもらいたいものです。五年、十年後に高校時代とは比べものにならないくらい成長した自分がいる事に気付く、そして次なる目標に向かい大きく飛躍していけることを願っています。同窓生一同、いつ

でも皆さんの活躍を期待し、仁井田に向かってエールを送っています。

秋田南高校OB医師会報告

今回、秋田南高校OB医師会の報告を依頼されましたので、その経緯や活動について述べさせてもらいます。私事です、高校時代は、吹奏楽部に所属しており、毎日トラペットを吹いて過ごしていました。吹奏楽部には、OB会が存在しており、現在もOB会で活動している、秋田シンフォニックウインドアンサンブルに所属しております。私は秋田大学医学部出身で医学部の中には、各高校の同窓会のようなものが存在しています。秋田県内では、秋田高校、横手高校、本荘高校、能代高校、大館鳳鳴高校などの同窓会が存在しています。しかし！残念ながら秋田南高校の医学部同窓会は存在しませんでした。その理由として、在籍している出身者が少なく、また在籍していてもお互いに南高校出身だということを知らず、機会もありませんでした。そんなこんなで、6年間の学生生活が終了しました。しか

ちなみに私の次なる目標は「青は藍より出でて藍より青し」です。

し、なにか寂しいものを感じながら、いろんな噂で、どこそこの医師は、南高校出身だとか聞くようになり、どのくらいいるのだろうか？いるのであれば一度でも集まってみて懇親してみたいものだと思うようになりました。医者になって7年目、いろいろな情報により、秋田県内の南高校出身の医師をある程度把握できるようになりました。平成11年秋に、南高校1期生で、協和町に開業していらっしゃる豊島慶弥先生に御会いできる機会があり、医師会発足に協力して頂くことが出来ました。豊島先生のお力添えもあり平成11年10月、秋田ビューホテルで第一回の南高OB医師会を開催することが出来ました。参加人数は15人程度でした。秋田大学出身以外の先生もたくさんおり、親睦を深めることができました。会長は、豊島慶弥先生、事務局は私、進藤がやることになり、その後、正式に南翔会からも、

O B会(支部会)として承認して頂くことができました。年に一回の開催を目標に会合を開き、活動しております。まだ、母校に対する大きな貢献はできておりませんが、40周年記念に賛助金を送ることができました。

最近では、会合の際に、簡単な勉強会を開き、医療レベルの向上にも貢献できればと頑張っております。また、医学部在籍中の医学生(南高校出身者)にも声をかけ、医学部には存在していなかったO B会の代りにと、参加してもらっております。秋田県以外で、活躍している医師も何人か把握できていますが、入会は困難ですので、現在、医学生を含め29人の会員で組織しております。今年で、4回目の総会を予定しておりますが、まだまだ、できたばかりのO B会です。しかも、私的にも不馴れな事務で、なにかと御迷惑をおかけするとは思いますが、宜しくお願い致します。今後、母校の発展、および秋田県の医療向上、さらに後輩達の育成などに貢献できればと考えております。

(20期 進藤 吉明)

私と同窓会と南高梅

むつみ造園土木株式会社

金 巳樹雄(5期A組卒業)



昭和44年私が南高を卒業した年は、

まだ学生運動の影響で大学の校舎閉鎖や講義の休講が続いていた時代でした。東京大学が入学試験を行わなかった唯一の年でもあります。同窓会も、4年前に1期生の先輩の卒業と同時に設立されていたものの、進学先や就職先にも同窓生はほとんどおりません。そのため、進路についての情報や実績も乏しく、先生も大変ご苦労なされたことと思います。幸いに私は、バスケットボール部に所属していたので、合宿の時に来ていただいたO Bのお話を聞く機会がありました。

そんな時代から同窓会も創立40周年を迎えます。このごろ各地各界で活躍する同窓生にお会いする機会が多くなったと実感します。私は、昭和48年東京で大学

間毎回出席させていただき、先輩からも仕事をいただいたりして大変お世話になっております。また昨年は、同窓会創立40周年記念事業実行委員会「南高梅の記念植樹」が計画され、そのためのお手伝いをさせていただいております。

そこで、記念植樹に予定されている「南高梅」(なんこうめ)について。

◇発 祥

明治35年、歌山県南部川(みなべがわ)村(現みなべ町)の高田梅を母樹とし品種改良が始まる。優良種37品種から昭和29年優秀7品種を選抜。昭和38年最も優秀な「南高」を選定し種苗名称登録を申請。昭和40年10月29日農林大臣により名称登録第184号として「うめ南高」の登録を許可。

◇名前の由来

昭和25年梅優良母樹調査選定委員長に就任した竹中勝太郎は、和歌山県立南部(みなべ)高校の教師であった。高田梅を改良した優良種37品種を園芸科の生徒とともに5年間にわたり調査を続け最も優秀な品種を選定し、南部高校の南と高田梅の高をとり南高(なんこう)と命名した。

◇特 徴

- 1 大粒の実
- 2 肉厚の実
- 3 鮮やかな紅色の実
- ・・・梅の一流ブランド

◇栽 培

九州から青森まで栽培可能だが、優良な品種であるがゆえにデリケート。

病虫害防除、肥培管理、剪定は重要。よい実を結実させるには別の品種と一緒に植栽すること。秋田県でも有望品種となっているが栽培はほとんど無い。

母校と同じ名前の梅は、地域の人々と高校生の長年の地道な努力によって一流ブランドに育ったことを学びました。その努力と情熱に敬意を表し記念植樹を行いたいと思います。

当社には私以下5名の同窓生がおります。造園や植物に関することなら何でもご相談下さい。天王町出戸浜にはポタニカルセンターを開放し、地域の皆様と一緒に緑の楽しみ方を研究し提案させていただきます。

母校と同窓の皆様がますますのご活躍をお祈り申し上げます。

同窓会設立 40周年 記念事業 のご案内

設立四〇周年を迎える本年度、次の事業を計画しております。同窓生が自ら楽しめる事業としていきたいと思っておりますので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

①記念植樹／和歌山県産の南高梅へなんこうめVや豊後梅などを、四〇周年になぞらえて計四本を学校の敷地内に植樹今後の手入れも同窓生の手で(四月)

②グランドゴルフ大会／期・クラス・家族チームなど参加自由。誰でもできるグランドゴルフで一日楽しみたい。チーム戦いや個人戦で競います。順位賞や参加賞など多数。参加料有り。会場は大潟村か雄和の施設を予定(六月上旬)

③文化祭での同窓生の記念講演／社会で活躍する著名な同窓生を招いての講演会。母校の文化祭・同窓会の記念展示や校内の見学などと合わせて

ご来校ください。(六月二十五日から二十六日)

④文化祭での記念展示／同窓会四〇年の歩みを、パネルや記念の品で紹介するコーナーを設置します(六月二十五日から二十六日)

⑤「昔の授業(仮称)」を再び／思い出のあの先生が再び教壇へ。あの恩師に当時のままの授業を再現していただきます。心と体の準備をして、宿題はくれぐれも忘れずに。恩師から当時のままの鉄拳(?)が飛ぶ可能性があります(八月中旬)

⑥記念祝賀会／昔の授業が終わって夕刻から恩師や級友と一緒に祝賀会。昔の授業や祝賀会だけの参加でも結構です。また、この日に同期会やクラス会を開催したい期・クラスは事前に連絡ください。座席配置を考慮いたします。(八月中旬)

⑦同窓会室の整備



／多目的教室棟(旧教育センター)の一室を同窓会室として看板を掲げ、資料の保存などをしていく(本年夏までに整備)

これらの事業は四つの部会で担当しております。問合せや申し込みは次の副会長まで。

①③の事業については
沢井 澄夫(7・A)
TEL 018-832-5032

②については
大山 善治郎(5・G)
TEL 0185-87-3151

④⑥については
川合 俊昭(5・E)
TEL 018-829-2992

⑤⑦については
黒崎 哲也(20・A)
TEL 018-834-1517

◆◆◆編集後記にかえて(雑感)◆◆◆

家が母校に近く歩いて5分とかからない。当時は2階の窓から自分の教室が見えていたものだ。始業ベルが鳴る5分前に家を出れば授業に間に合うものだから、朝は余裕がある。物事にはほどほどと言うものがあり、ありすぎるのが良くなかった。忘れ物でもした日にはもう大変。十三号線の手前でUターン。かばんに忘れ物を詰め込んで猛ダッシュ。ぎりぎりセーフで教室に駆け込んだ日々が懐かしい。会報の発行に携わるようになって、高校時代の「あの感覚」がよみがえるようになった。ぎりぎりセーフで間に合った時の、あのなんともいえない安堵感。毎回発行間近になってからの打ち合わせで、内心「本当に間に合うの」と思いつつ、気が付くと打ち合わせの場は近くの居酒屋へと移動。ここからが、実は会報メンバーの真骨頂。面白いアイデアはほとんどそこで生まれる。ここまで来れば「あの感覚」はすぐそこにある。もちろんメンバー達はその事を熟知している。決して楽な作業ではないのだが、何故か楽しい。素晴らしい仲間達に感謝したい。(9期 藤原 常太)

同窓会事務局
秋田市仁井田緑町四の一
秋田県立秋田南高校内
〒010-0147
電話 018-337-7433

各種印刷・ホームページ作成
電子組版・電子文書処理

株式会社 **くまがい印刷**

代表取締役 熊谷正司(4・A)

秋田市中通六丁目4-21
☎018(833)2220(代) FAX(833)6732

～秋田駅とともに100余年～

株式会社

関根屋

代表取締役 金子達也

25期J組卒

秋田市東通り一丁目1番26号
☎018-833-6461 FAX018-831-4062

税務のご相談は……

宇佐見康伸税理士事務所

税理士 宇佐見 康伸(4・A)

事務所／秋田市中通五丁目6-33
☎018-832-8045